

G T E C 英語検定問題点について

… 3年生は南部教育事務所主催の「校長会テスト」もあり、生徒も頑張っている。他にも生徒は外部で「北辰テスト」を月に1回ほど受け、「英検」「漢検」なども受験している。

(北辰テストはいまだに私立の学校の推薦に利用。英検などは県立高でも点数になる)

こんな忙しい3年生に、さらに「全国学力調査」「上尾市学力テスト」が加わる(コロナの中で全校学力調査は中止)。その「上尾市学力テスト」が今「G T E C」へ変更されているのである。

現場の先生方は、「G T E Cとはそもそもなんなのか？」校内研修も行わず、よくわからないまま(管理職もよくわからないまま)時間割に組み込まれ、英語科の先生の主導のもと他教科の先生も試験監督して組み込まれ実施することになった(英語科の先生は、教育委員会主催のZOOM会議にて1回、ベネッセの担当から運営についてきいている)。

「ぜんぜんやる意味がわからないよね」「なんでこんなに時間使うわけ」「子どもたち変な解答してたよ」と現場の先生の声。英語科の先生ですらため息をついている「授業でやっている所じゃないんですよ」「難しくついていけない子どももいる」「英検は人によってテスト(級)が違うのにみんな同じテスト」「そもそも英検を学校でやらないのになぜG T E Cを授業に組み込むのか」「A L Tが毎年変わるのはよくない」「お金をかけるところが間違っている」

G T E Cの問題点を箇条書きであげる(文章にしきれない)

- 1 「G T E C」が何なのか説明がされないまま実施：教師も生徒もよくわかっていない。「ベネッセ」によるものすらわかっていない。「英検」との違い：そもそもどれだけの価値があるのかわかっていない。そういったガイダンスの一つもないまま「はいテストやってね」と言わんばかりに実施が強行された。
- 2 上尾市の独自テストとして実施
2019年：中2 2020年：中2 中3
なぜこの学年なのか説明不足
- 3 これまでは「田中研究所」による国・数・英の3教科を実施してきた(指導案に組み込むよう言われてきた)→上尾市で研修まで行っている。現在、G T E Cを実施した学年は、国・数のみ実施し、結果がまとまってでてこない(今までのテストすら、うまく立ち行かないのにどちらも実施している)。
- 4 (趣旨)「2000万円も予算をかけるなら、アピースマイルサポーター(年間ひとり98万円の人件費)が何人も雇えるのではないか」「今必要なのは、英語のテストではなく、英語をサポートしてくれる人材」「英語の試験に3時間もかけ、しかも授業でやっている内容とあっていないものを試験して、英語が苦手な生徒は、苦痛の時間の連続です」

- 5 「だれが決めたのか」「英語力があがる根拠はどこにあるのか」「なぜ全国テストも廃止になったコロナ禍の中で実施したのか」「このテストで、どれだけ生徒や教師が大変なのか、見に来てほしい」
- 6 テストの内容
「読む」「書く」「聞く」「話す」4技能を実施。各1時間近く要する。
1人1台タブレット式のPCが送られてきて、それを聞いて「声」で回答。1人1台のPCが回らず、1時間目は1組、2時間目は2組…が利用。時間もかかるし、消毒などできていない。距離をとりきれないため、1組だけで2部屋（特別教室を前日から準備）も使う。
- 7 直接学校へベネッセの担当が来ないままで、英語科主体で回収 梱包
- 8 テスト前に56ページもある別冊を配布し勉強する。GTEC対策のための別冊学習ワークが届いているが、授業の実態に合わないワーク。学校で取り上げることは難しい。
- 9 不登校生徒への対応が難しい。機器を使用したり、3時間も英語に集中させるのは困難。全員にやらせる意味を感じない。
- 10 点数として、子どもたちに結果が配られるが、子どもたちはどれだけの価値があるのかわかっていない。英検に相当すると言われるが、高校側では何も点数化されない。
2020年7月頃に急に市教委よりそ

の点数を調査書に載せるようにいわれる。

- 11 授業時間の足りない今ですら、1学期末、学年でレクをする時間を設け、レクを行ったが、その際、管理職からコロナ禍で授業が足りない状態で行うのはやめてほしいとあり、子どもたちは楽しんでいたのに、今後はできなくなってしまった。修学旅行も中止となり、子どもたちが自分たちで楽しい企画を行うことも大きな学びとなるはずなのに…それなのにGTECには4時間も使い実施。「先生、なぜやるのかぜんぜん意味がわかりません…」生徒の多くの声である。

以下略